

8月22日13時 小海町役場2Fにて、映画『道草』鑑賞&対話会
～小海駅舎内 JA 跡地活用事業「駅の待合室」 子ども若者支援事業のキックオフイベント～ お知らせ

映画『道草』鑑賞 & 対話会 **宍戸監督が小海町に来る！！**

ゲスト: 監督 宍戸大裕さん 佐久総合病院 由井和也さん ホスト: 駅の待合室 宮尾彰

■映画「道草」とは

暮らしの場所を限られてきた人たちがいる。自閉症と重度の知的障害があり、自傷・他害といった行動障害がある人。世間との間に線を引かれ、囲いの内へと隔てられた。そんな世界の閉塞を、軽やかなステップが突き破る。東京の街角で、介護者付きのひとり暮らしを送る人たち。タンポポの綿毛をとばし ブランコに揺られ、季節を闊歩する。介護者とのせめぎ合いはユーモラスで、時にシリアスだ。叫び、振り下ろされる拳に伝え難い思いがにじむ。関わることはしんどい。けど、関わりなくなることで私たちは縮む。だから人はまた、人に近づいていく。<https://michikusa-movie.com/>

■由井和也さんからのメッセージ

「地域共生社会をつくろう」。上からそんなかけ声がふってきます。「でも、どうしたらいいのだろう」。僕もみなさんもなかなか前に踏み出せません。そんなある日、僕は素敵な映画に出会いました。それがこの『道草』です。障害があっても住み慣れた地域で自立した暮らしができる。それは、本人にとっても地域にとっても幸せなことなのだと気づかせてくれました。僕が勤務する佐久病院は“地域住民とともに”を合言葉に、住民が主体の豊かな地域づくりへの貢献を目指してきました。豊かな地域づくりは、上からのかけ声ではなく、住民ひとりひとりがこういった映画を観て学び、考え、自立と共生を語る、そんなことから始まるのではないかと思います。忙しい毎日ですが、道草をするつもりでこの映画上映会とトークショーにご参加いただけますとうれしいです。早足で前だけ見て歩いていると見落としてしまうような大切なものにきっと出会えると思います。



由井和也先生の後ろの額は若月俊一先生の書
「愛情こそが最高の技術 平成12年9月7日 若月俊一」